

令和8年3月

「運」も味方にする経営

(「運」は誰と出会うかと「利他」により強くなります。人格とか能力は関係ない)

古田土会計グループ(会生生助会計)は総社員数450名、粗利益約35億、経常利益5億円、自己資本30億無借金に存りました。この間、規模の拡大を目指したことはなく、(一時期あた)私も鈴木代表と理念の浸透を目的とした経営をしてきました。規模の拡大より理念の実現を重視したので理念を共有できた生助会計さん以外はM&Aはしておりません。またお客様のためにならざるを得ない銀行さんとの業務提携は(まじり、事業承継対策などの銀行の提案は銀行の利益が中心でお客様が損をするケースがあります。銀行さん紹介の税理士さんは銀行さんに手数料を払うために通常の相場の1.5倍〜2倍の相続税の申告料が請求されます。銀行より紹介されても歳末に税理士もまだ私(古田土)は「運」の強い人間です。頭がよくなく、不器用(小学校5年まで自転車に乗れなかった)で小、中、高とクラブの部長とかキャプテンに存ったことは1度もありません。高校卒業時商業高校(水戸商業)なのでほとんどの人が就職するのですが、働く自信が存ったので一旦決まった銀行の内定を辞退しました。先生にひどく介された記憶がありません。30歳のとき、監査法人をやめ税理士として独立しました。志が高く信念があつたわけだけども公認会計士としての未来は自信がなく向いて存ったかです。私は今では、税理士という仕事を天職だと思っています。会計事務所経営という天職に出会ったか、今があります。そこでこの頃存んで存なうまくいっているのか考えてみました。一番運がよかつたのは、令和6年春の叙勲において「旭日単光章」を受章したことです。協会の役員を長年やった人は「旭日小授章」をもつた人はいますが「旭日単光章」は本業で世のため、人のため社会に貢献した人へのみ与えられます。士業で受章した人を私は知りません。

「運」のよかつた理由を思いつくままに書きます。

- ① 規模の拡大より、社員と家族を幸せにする経営をした。(例としてはまじり給与36歳平均で男子713万、女子526万平均64万5千円等)
- ② 自分の会社がよくなるのではなく、社会貢献を重視した経営をした。例としては障がい者雇用、日本中から見学者が訪れます。東京都から障がい者雇用のモデル企業として選ばれ、古田土会計の取り組みが30分動画で東京都産業労働局から西へ信されています。また経常利益の2%を目安(600万円〜800万円)に障がい者施設、子供食堂等に寄付して、封、駅前清掃や海岸のゴミ拾いや「日本を美しくする会」で清掃活動をしていきます。その他、③ 自分の会社がよくなるマーケティングではなく、お客様がよくなる商品、サービスを開発提供(提供)している。社長の成績表は全てのお客様に無料で提供しています。今年より「人を大切にする経営計画書」の簡易版を無料で提供等。「運」がよくなるコツは「自利とは利他存り」という言葉で表現できます。

(株)PHP研究所から出版された鏡山秀三郎氏と横田南嶺氏の本が、抜すいと◎お釈迦様さまは「最高的人格者は自分の欲望を抑えて慈悲の心を育てるものだ◎自分の快樂(がけ)を求め欲望を抑えて他者を思いやる心を育てるのが坐禅の真髄。◎人のため人が喜ぶよう存ことをするほうが楽しい。人様のお役に立ってよかつたなと思つた自分が本当の自分だと気づくこと◎究極は「人を喜ばすこと」につきま。これこそが「慈悲の心」です。「慈悲」の「慈」は相手に「喜(め)や喜(び)を与えること。悲」は相手の「苦(しみ)がわがらる心」です。「利他の心」で仕事や人生を生きると「運」がよくなります。理念を中心にした経営をする、人が育ち、働いてくれる社員が生きがいをもつて働いてくれる、会社は自然に成長拡大し社員の高給与も実現し社会貢献もできる。社員が自分の会社に誇り(プライド)を持つる会社に存ります。私の心からの人生は、1社でも多くの中小企業に「人を大切にする経営計画書」を作成して、もつて社員と家族を幸せにする経営をするようにお手伝いすることに取り組みます。

古田土 満